令和６年度 九度山町立九度山小学校（学校経営方針）

九度山町学校教育目標

〇自己実現を目指し自立する子どもの育成
〇人を思いやる心豊かな子どもの育成と自ら体を鍛える子どもの育成
〇確かな学力と深い学びのできる子どもの育成
〇共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する子どもの育成
〇ふるさと学習を通して地域の文化や伝統を重んじ、国際社会に貢献する子どもの育成

保護者の願い

〇子どもが楽しく、安心・安全に通える学校
〇子ども一人一人がわかるような指導
〇一人一人が大切にされる学校・学級づくり

【学 校 教 育 目 標】　　校 訓 ［真 面 目］

学校や地域に誇りをもつ児童の育成

～くろうをおしまず どりょくして やる気いっぱい まじめな子～

〇よく考え努力する子
　基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、学習や生活に主体的・意欲的に取り組む子
〇心豊かで思いやりのある子
　自他を大切にし、互いを尊重し合い、よりよい集団をつくろうとする子
〇心も体もたくましい子
　進んで運動に親しみ、体力を高め、ねばり強く取り組む子

学校評価より

〇和歌山・九度山のよさやすばらしさを知る体験や学習は、学びの力になる。
〇学習の場面だけでなく生活の場面においても、自分の考えや思いを伝える力をさらに育成することが必要である。
〇一人一人の個性や特性を理解し、個に応じた指導の充実を図ることが大切である。
〇自他の命の大切さを理解させるとともに、自分を大切に思う心が育つよう取り組んでほしい。

児童の様子より

〇５分前行動をとれる児童が多い。進んで挨拶したりスリッパを揃えたりできる児童が多いが、さらに生活の約束を守れるようにしたい。
〇おおむね素朴・真面目であるが、個別に支援が必要な場合もある。
〇自分の考えを表現することに苦手意識があり家庭学習等、粘り強く取り組む力が弱い。

重点目標	**基礎基本の定着と主体的・対話的な学習活動の充実** ◎よく考え「わかる」「できる」喜びを実感する授業 ◎学習意欲を高め、学びに向かう姿勢の向上 〇読書活動の推進 〇PC端末及びICTの効果的な活用	**心豊かで心も体もたくましい児童の育成** ◎道徳教育・人権教育の充実 ◎児童会活動・学級活動など特別活動の充実 〇生活指導の充実	**一人一人のもてる力を高める特別支援教育の充実** ◎子どもの理解と適切な目標設定 ◎つながりを大切にした取組の充実 〇関係機関等との連携	**学校や地域に誇りをもつ児童の育成** ◎ふるさと教育の推進 ◎体験活動の充実 〇キャリア教育の推進 〇コミュニティスクールの推進
具体的な取組	１言語環境の整備と言語活動の充実 ・読書活動の充実 ・国語科を要として各教科の特質に応じた言語活動の充実 ・言葉を大切にした授業作り（話す･聞く･つなげる） ２研究主題に基づいた指導と授業改善 ・「読むこと」「書くこと」を意識した指導 ・話し方・聴き方・話し合うためのスキルを指導 ・問題解決的な学習の展開（見通す・考える・聞いてつなげる・学び合う・考えを深める） ・さわやかタイムを有効に活用し、読解力・思考力を育成 ３学力の把握と学習規律の徹底 ・学力調査の結果分析と課題把握（子ども理解） ・学習ルール（準備・持ち物・チャイム着席等） ４PC端末を効果的に活用し個別最適な学びを推進	１道徳・人権教育の充実 ・いじめを許さない心の基盤となる思いやりの気持ちや生命を大切にする心、規範意識を育む ２児童会活動・学級活動など特別活動の充実 ・互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、解決方法などを合意形成する指導 ・有用感・存在感を実感できる学級・集団づくり ３生活指導の充実（自主・自立・思いやり） ・大切にしたい「あいうえお」を大切にする児童 ・非認知能力（粘り強く取り組む・折り合いをつけられる等）の育成 ４体力の向上・目標を明確にした取組 ・体力アッププランを作成し、児童の実態に応じた目標・取組を設定	１子どもの理解と適切な目標設定 ・個別の指導計画・個別の支援計画の充実 ・指導形態・内容・方法についての研究 ２通常学級との連携 ・特別支援学級における指導の形態・方法の工夫 ・校内研究授業の実施 ３通級指導教室からの情報発信 ・個に応じた具体的支援の研究 ・通級指導教室の役割、指導方法・教材等の情報発信 ４保幼・中との連携の推進 ・つなぎ愛シート（個別の支援計画）の活用 ・保育参観・授業参観をとおした課題の共有 ５SC・SSWとの連携 ・校内委員会、ケース会議の充実	１総合的な学習の時間「真田」の充実 ・ふるさと「九度山」について体験的に学び地域のよさやすばらしさを知る ・校区巡り・校区探検、柿の学習・世界遺産学習等 ・課題設定からまとめ・表現に至る探求の過程 ２体験活動の充実 ・真田まつり、福祉体験、紙すき体験、琴体験、緑育体験、子ども農村漁村南北交流事業、上田市との交流（スキー体験等）、ボランティア活動 ３地域資源の活用 ・地域の「ひと・こと・もの」からの学び ４保護者のPTA活動の活性化 ・保護者の学校運営への参画意識の向上 ５地域に開かれた学校 ・各種お便り・HP等をとおして、積極的に学校の取組の情報、子どもの様子等の発信
指標	〇県学習到達度調査・全国学力・学習状況調査で全教科の正答率が県平均に 〇わたしは授業がわかる（児童８７％） 〇自分の考えを自分の言葉で伝えることができる（児童７５％） 〇教員による校内授業研究（各学年） 〇放課後学力補充（年間２０回以上実施） 〇さわやかタイムの充実と読書タイム（週２回実施）	〇学校が楽しい（児童９０％） 〇いじめの解消率100％・経過観察の徹底 〇そうじをしっかりできる・スリッパ揃えができる・あいさつができる（児童９０％） 〇困っているときに手助けしてくれる（児童９０％） 〇思いやりの気持ちや生命を大切にする心、規範意識等の道徳性を養うための指導方法の工夫や授業作りに取り組んでいる（教員９５％） 〇体力テストが県平均を上回る	〇個別の指導計画を作成し、事例をもとにした話し合いを行う（全作成） 〇個々の障害や特性に応じた指導の工夫がなされている（個別の指導計画の実践） 〇個に応じた自立活動を行う 〇校内委員会を月１回程度実施	〇「真田」の時間が楽しい（児童９０％） 〇児童の発達段階に応じた体験活動を充実させる・キャリアパスポートを活用している（教員９０％） 〇学校は、ゲストティーチャーによる授業や校外での体験活動の取組を行っている（保護者９０％） 〇定期的なHP更新（週１回程度） 〇お便りによる発信（月１回程度）